



政治学／民主主義理論／日本政治論／SDGs／環境教育

Keywords : 持続可能な社会 自由民主主義 SDGs

研究概要

現代民主主義理論
現代日本政治論
SDGsの政治学
日本環境教育思想史

地域貢献

日本環境教育学会関西支部副支部長
関西NGO協議会関西地域NGO助成プログラム審査会委員長
社団法人和歌山人権研究所副理事長
高野山金剛峯寺日並記編纂委員
和歌山県岩出市介護保険計画策定委員会委員長



教養・基礎教育部門
准教授
新田 和宏
NITTA Kazuhiro

● 研究テーマ

冷戦終結から30余年、歴史はあたかも後戻りをするかのような状況にあります。ウクライナ戦争の勃発、権威主義体制の台頭、排外主義的な右翼ポピュリズム勢力の席卷、それとともに自由民主主義とその基盤である市民社会スペースの縮減。これらの現象は個々バラバラなものではなく相互に関係しながら現れています。そのトータルな解明を、政治学研究のテーマに据えて取り組んでいます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
17 GOALS TO TRANSFORM OUR WORLD

●トピックス

2023年3月26日、近畿大学生物理工学部において、日本環境教育学会研究集会の開催を企画。シンポジウムのテーマは、「環境教育と平和教育と人権教育の歴史的対話」。シンポジストには核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)国際運営委員の川崎哲さん、SDGs市民社会ネットワーク共同代表およびヒューライツ大阪所長の三輪敦子さん。ICANは2017年度ノーベル平和賞を受賞。尚、当方がシンポジウムのモデレーターと実行委員長を務めます。

日本環境教育は、公害教育および自然保護教育として誕生し、以来50有余年の歴史を重ねてきました。これを機に今後の環境教育の在り方について展望しておきたいと思えます。2020年代における環境教育の在り方を展望するにあたり、世界は激動期を迎えております。いまや「人ひとり」の私的レベルにおける配慮では追いつかない状況であり、環境教育においても「みんなで」如何に取り組むかということを時代が要請していると考えられます。このことが、すなわち「SDGsのために行動を促進する教育(Education to promote action for SDGs)」と共振します。求められるのは「みんなで」。と同時に環境教育と平和教育と人権教育の歴史的連帯です。

● 論文

「ワークショップという熟議民主主義」「市民社会を強化するガバナンスとパブリック・マネジメントおよびデモクラシー」「NGO・NPOにおけるアカウンタビリティ／アドボカシーという戦略」「グローバリゼーションと新自由主義」「『新しい政治』とアイディアの政治」「新しい政治学と環境政治学」「『新しい貧困』の政治学」「ポスト新自由主義レジームの政治」「『松下政治学』と新しい政治」「政権交代と『新しい政治』の政治的意義」「『高島政治学』における市民政治の再発見」「東日本大震災における『新しい政治』」「東日本大震災がESDに問かけるもの」「四半世紀に及んだ政治改革および政治主導の帰結とその展望」「ガバナンスを制御する国家ガバナンスの統治技法とその権力性」等
※上記の論文は『近畿大学生物理工学部紀要』に掲載されています。検索してダウンロードできます。